

今月のみことば 2026年9月

霊の父(神)は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。
(ヘブル人への手紙12章10節)

本の紹介シリーズ **レッスン** / キャロル・リン・ピアソン・作 / 平凡社

ロバートの学校がはじまりました。先生はやさしそう。答えが出せるという気分。学年が上がるたびに先生は次の問題を出します。

「自転車で走っているとき、転んで足を骨折。悪いのは君？それとも自転車？歩道の出っ張り？誕生日に自転車をくれたパパとママ？」「ティーンエイジャーになった君は学校の成績もパツとせず、ちっとも人気がありません。そのうえ両親が離婚することになり、人生に嫌気がさした時、君はどうする？」

ロバートがこんなのいやだ！と机の下にもぐりこんでも、先生は「これが上級生のための問題なの。ここへは、学ぶためにきているってことを、忘れないで」とやさしく見守ります。ついにロバートが「ひどい問題だったなあ。でもとうとう答えを見つけたぞ！」と叫ぶと、先生は「よくやったね！！」とほほえむのでした。

ロバートは、またひとつ上の学年に進みます。時には、問題の答えを見つける前に、次の問題がくることもあります。

「あなたの3人の子どものうち、ひとりには先天性の障害があり、その子の将来が心配です。その子に手がかかるために、いろいろな家族の問題が出てきて・・・」

「上司が会社でひどい不正を働いていることを、発見しました。あなたが何かを言えば、この会社にはいられなくなるでしょう・・・」

ロバートは問題を解こうと、何年も何年も努力を続けます。家族や友達が支えてくれますが、誰もロバートの代わりに問題を解くことはできません。人はそれぞれ問題を抱えていて、ロバートが答えを出せるのは、自分の問題だけでした。

ロバートは今では、学ぶために問題が出されるのだ、と理解しています。すっかり年をとったロバートに、先生の声が聞こえます。「あなたはこれまで、どれほど人を愛してきましたか。死んだ後でもあなたを忘れないのはだれですか？」ロバートは突然気がつきます。これまで学んできたことはただ一つのレッスンだったのではないか？それは「お前はどれほど愛せるか？」という問題だと。

ロバートの先生とは誰だったのでしょうか？

それは、人に命を与え問題を通して愛を教えてくださいと私(筆者)は捉えました。人生には、乗り越えなければならない試練があります。恐れや不安を感じることもありますが、背後に神様がおられると認識して取り組みましょう。

神様に会った時に、すべては恵みであったと振り返ることができるのです。(T)

